



学校だより 第5号

菩

提

樹

平成27年9月

高岡市立東五位小学校



「夢」が叶わなくても…

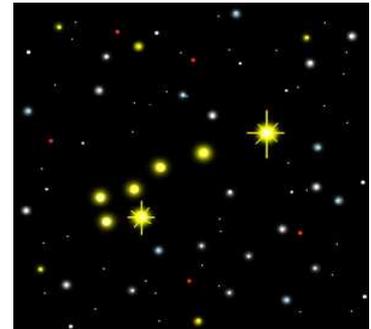
校長 吉田 茂

宇宙飛行士の油井亀美也さんは、今、地球上空400kmを周回する国際宇宙ステーションで様々なミッションをこなしています。「このとり5号」をロボットアームで回収する映像をご覧になった人も多いことでしょう。油井さんは日本人として10人目の宇宙飛行士ですが、「中年の星」とも言われるように、45歳で初めて宇宙に飛び立ったのです。「自分ももしかしたら…？」と変な勇気をもったような気がします。

油井さんの「地球がすごくきれいで、もう言葉がないくらい。これを皆さんにぜひ見せてあげたい。」と言われた言葉が、とても印象に残っています。

油井さんは小さい頃から夜空を見上げ、「宇宙飛行士になりたい」という夢をもち続け、39歳で400倍を超す超難関の宇宙飛行士に合格したわけですが、先日、同じ夢に向かって最後まで競り合った10名の候補生を特集した番組を視聴しました。その顔ぶれはというと、パイロット、物理学者、JAXA職員、医師……。最終選考まで残った人たちのキャリアはすごいものでした。

油井さんの合格の日から宇宙に飛び立つまでの6年の間、難関に挑んだ人たちがどんな気持ちでどんな日々を送ったかとても興味深かったです。



- 油井さん…いつ宇宙に飛び立てるか分からない中、ひたすら厳しい訓練に励む。
- Aさん……しばらく現実を受け容れられなかったが、自分の仕事の意味を再認識する。
- Bさん……自分がやりたかったことがはっきり分かり、生き方が定まる。
- Cさん……得た知識や経験を仕事に生かそうとするなど、仕事に対する意識が変わる。
- Dさん……教職という新たな道に進み、憧れに挑戦することの大切さを教える。
- Eさん……2人の母親になり、より人生を豊かにしようと前向きに生きる。 等々

人それぞれですが、皆困難なことに挑戦したことは、夢破れたとはいえ、大きな意味があったと考えています。「どんな人生を歩んでもいい。何を選択しても間違いじゃない。」と誇らしげに話す言葉に、「失敗」を糧に前に進もうとする強い意志が感じられました。

ところで、未来がいついつまった子供たちは、いったいどんな夢をもっているのでしょうか。漠然とした憧れが多いとは思いますが、中には明確な目標となっている子もいることでしょう。でも、未来を担う子供たちにこそ、いつでも、いくつでも、どんなに大きくても夢をもっていてほしいと願っています。世の中そんなに甘いものではなく、努力を続けても夢が実現しないこともあるでしょう。結果がすぐに出ないことはさらに多いことでしょう。しかし、夢に向かって努力を続けることで、**見えないところで自分の可能性が開かれる・多くの選択肢がもたらされる**ことが多いと考えます。まずは、夢をもち、失敗を恐れずチャレンジし続ける気持ちを少しでも育てていきたいと思えます。

かく言う私も、いくつになっても夢をもち続けたいと思えます。